

今後の望ましい県立高校の教育の在り方について（答申）概要(1)

令和8年3月〇日
県立高校の将来ビジョン検討委員会

【本県教育の基本目標・具体的人間像】

「夢や希望を実現し ともに未来を創る鹿児島の人づくり
～誰もが幸せや豊かさを感じられる地域や社会を目指して～」

- 1 知・徳・体の調和がとれ、主体的に考え行動する力を備え、未来の社会の創り手となる人間
- 2 伝統と文化を尊重し、それらを育ててきた我が国と郷土を愛する態度を養い、互いに認め、高め合い、生涯を通じて幸せや生きがいを感じながら意欲的に自己実現を目指す人間

【背景・目的】

- 入学動機や進路希望、興味・関心や背景にある生活環境などが非常に多様
- 不登校生徒の増加等により、学びの多様な学校や通信制課程のニーズが増加
- 県立高校61校中34校は1学年3学級以下の小規模校
- 中学校等卒業者の減少・・・R7.3：15,124人 → R16.3：12,588人（-2,536人）
→ 生徒の多様な学びのニーズや生徒数の減少に対応するため、今後の望ましい県立高校の教育の在り方について検討

魅力ある県立高校 … 学びたい学びがある高校、充実した(楽しい)学校生活を送れる高校、進路目標を達成できる高校

令和22年（2040年）を見据えた取組の方向性

1 生徒が行きたいと思える県立高校づくり、特色化・魅力化

- 学びのセーフティネットとしての役割を踏まえた学校の配置や規模についての検討
- 学科を問わず、地域の自治体や産業界、大学などとの連携・協働
- 学習内容を自分で選べるカリキュラム、学年を超えて混合で学ぶ場、相互指導の形など、多様な学びの在り方について検討
- スクール・ミッションやスクール・ポリシーが機能しているか検証。中学校等に周知
- 高校の特色や生徒のニーズに応じた取組などをSNS等を活用し、生徒主体で情報発信
- 高校選択時に重視する視点の把握や、生徒のニーズに応じた取組ができてきているか評価する仕組みを整備
- 校務DXの推進等、教員の業務改善や負担軽減を図り、生徒指導や教材研究の時間を確保
- 各地域の実情に応じて柔軟に対応

2 生徒の多様な学びのニーズへの対応

【全日制・定時制における学びの充実】

- 不登校生徒を対象とした遠隔授業や通信教育を適切に実施
- 遠隔授業を実施するための環境整備、不登校生徒等を対象とした遠隔授業配信センターの活用、開陽高校と連携した通信教育の実施、ICTを活用した生徒間の交流の仕組みづくり等について研究

【通信制における学びの充実】

- 通信制生徒の学びをサポートする体制や場所の整備等について研究
- 開陽高校通信制の機能強化に向けた具体的な対策について検討
- 多様な学びの選択肢の一つとして、教育内容の更なる充実、出口の保障等について検討

【多様な学習機会の確保】

- 単位制や昼間部定時制、全日制・定時制・通信制を行き来できるフレキシブルな形の高校の設置に向けて研究
- 全日制・定時制・通信制が横並びとなり、生徒に応じた学びを提供。教える側も学ぶ側もオンラインによる学びのアップデートが必要

【学びの多様な学校】

- 生徒のニーズや義務教育段階での状況、他県における先進的な取組等について研究

3 全ての生徒の学びの充実

【普通科における学びの充実】

- 各学校の実情に応じて、探究・文理横断・実践的な学び、教科横断的な学びを推進
- 選ばれる普通科となるために、大学や企業等と連携・協働し、普通科の多様化を図り、学校の特色を明確化
- AIやデータサイエンス、地域の経済政策や産業振興など地域課題の解決や活性化に向けた学際領域や地域社会などに関する学科の新設等について検討

【専門学科の学びの充実】

- 外部の専門人材活用、産業界や大学、地域の自治体等との連携推進、学校間連携や遠隔授業の活用、施設設備など教育環境の整備（総合学科も同様）
- 地域の特色を生かした専門学科を整備し、生徒の地元定着を促進

【総合学科における学びの充実】

- 学校間連携を円滑に進めるため、単位制への改編について検討
- 多様な学びの選択肢や進路選択など、総合学科の魅力をより一層周知・広報

【各科共通】

- 生徒の探究成果や関心テーマの交流ができるプラットフォームの構築を検討
- 地域の自治体や企業、外部の機関等の協力も得て、コーディネーターの配置を検討
- 特別支援教育に関する校内支援体制の充実（校内委員会、教職員研修会の実施等）、通級による指導の実施、特別支援教育支援員の配置拡充
- 単位制高校のニーズや課題等を把握し、必要に応じて、単位制への改編に向けて検討
- 留学や海外研究等の多様な国際経験の機会に誰もがアクセスできるよう環境整備を進めるとともに、グローバル人材育成に資する拠点校の整備など、国際的な教育を行う高校の整備について研究
- 問題解決能力の向上、創造性・発想力の育成、地域活性化につながる人材育成のため、アントレプレナーシップ教育を推進
- 高校での学びの内容や高校卒業後の進路選択などについて情報発信

今後の望ましい県立高校の教育の在り方について（答申）概要(2)

令和8年3月〇日
県立高校の将来ビジョン検討委員会

【本県教育の基本目標・具体的人間像】

「夢や希望を実現し ともに未来を創る鹿児島の人づくり

～誰もが幸せや豊かさを感じられる地域や社会を目指して～」

- 1 知・徳・体の調和がとれ、主体的に考え行動する力を備え、未来の社会の創り手となる人間
- 2 伝統と文化を尊重し、それらを育んできた我が国と郷土を愛する態度を養い、互いに認め、高め合い、生涯を通じて幸せや生きがいを感じながら意欲的に自己実現を目指す人間

【背景・目的】

- 入学動機や進路希望、興味・関心や背景にある生活環境などが非常に多様
- 不登校生徒の増加等により、学びの多様化学校や通信制課程のニーズが増加
- 県立高校61校中34校は1学年3学級以下の小規模校
- 中学校等卒業者の減少…R7.3:15,124人 → R16.3:12,588人（-2,536人）
→ 生徒の多様な学びのニーズや生徒数の減少に対応するため、今後の望ましい県立高校の教育の在り方について検討

魅力ある県立高校 … 学びたい学びがある高校、充実した(楽しい)学校生活を送れる高校、進路目標を達成できる高校

令和22年（2040年）を見据えた取組の方向性

4 生徒数減少への対応

【通学区域】

- 一部の高校に生徒が集中する懸念があることや、学びのセーフティネットとしての役割などを踏まえ、現行の通学区域制度を維持することが適当

【学校の配置】

- 学びのセーフティネットとしての役割を踏まえ、経済的負担や通学時間に配慮
- 再編整備を前提に、各地域の核となる公立高校を残しつつ、生徒のニーズや教育の質、市町ごとのバランス等を考慮し、基準を明確にした上で地域と対話しながら計画的に配置を見直し
- 開陽高校通信制の協力校は、入学状況や協力校の状況等を踏まえた対応が必要。また、現協力校に通信制や定時制を併置することも検討

【学科の配置】

- 学区内に普通科、専門学科のバランスを考慮し、希望に応じて選択できるよう配置

《普通科》

○

《専門学科》

- いくつかの拠点校に集約して予算を重点配分することで、教育の質の向上や学びの深化、支援体制の充実など検討（特に、基幹産業である農業科の充実策を検討）
- 産業界等と連携して行う学校設定教科・科目の開設や、学科再編を検討

《総合学科》

- 設置校の状況や中学生の進路希望を考慮し、学科本来の趣旨や専門性の深化について検討

【学校の規模】

- 生徒の教育条件の改善という視点で検討
- 生徒が集団の中で多様な考え方に触れ、切磋琢磨することを通じて資質・能力を育むという観点から、一定の規模を確保することが望ましい
- 地域ごとに状況が大きく異なることから、下限や上限を一律に定める「適正規模」という考え方よりも、「望ましい規模」という柔軟な考え方が良い
- 再編整備を行う場合、学校を統合して学級数を確保し、十分な生徒数・教職員数を維持し、特色ある魅力的な教育活動ができるようにすることを前提として検討
- 地理的な要因、学校や地域の実情に応じて、柔軟性を持たせた上での検討も必要

【小規模校の教育条件の改善】

- 遠隔授業や学校間連携、外部人材の登用、学校施設の有効活用など新たな発想を持ち、生徒が多様な学びや考え方に触れ、自分の生き方を考えられるような教育条件を整備
- 遠隔授業は、離島以外の高校にも配信するなど柔軟に運用
- 遠隔授業に関する教員の指導力や活用能力を高めるための取組が必要
- 大学や産業界等と連携した新しい教育方法を実践・検証するための実証校の設置を検討

【通学支援，寮など】

- 学びのセーフティネットとしての役割を踏まえ、通学手段の確保について具体的に検討
- 学校の配置を検討する際は、公共交通機関の利便性や、保護者の負担に配慮、寮費に対する支援も検討
- 施設設備や通学手段の確保など、学びの環境の充実を検討するに当たっては、財政的な条件も踏まえる必要

5 高校振興の進め方

- ◇国の法改正や高校教育改革、グランドデザイン等を踏まえ、長期的な視点を持ちながら、中期・短期のビジョンを策定
- ◇当事者（高校生や中学生、教職員、保護者等）を対象としたニーズ調査を行い、ビジョンに反映
- ◇地元と十分に協議を重ね、各地域の実情に応じて柔軟に対応